

然るに争議団に於ては、資格者一同明日より出勤するを聞かば、午後七時頃より、急遽争議団員の非常召集を行ひ、各支部に資格者を招致し、何故に今日に至りて結束を破り出勤するやと其理由を糾し、資格者は之に對して曰く、

我々は決して結束を裏切り、出勤するものに非ず。工場閉鎖の噂高く、此噂は根柢ありて、決して會社側一時の政策的聲言にあらずるものと信ずるを以て、工場側の意嚮を確かめ、且其状況を視察するの目的に出で、引續き出場をすべき考にあらざる旨を述べたるに、争議団も之を諒し、尚今後に於ける団員の結束を鞏固ならしむる為め、先に団員の半数出勤(各支部に)を許したるを廢止し、二十日以後は再び全部支部に集合すべき事を命じ、以て工場出勤者の防止を嚴にするに至れり。更に彼等は本争議をして、関西総同盟の争議に移す

べく、先の上阪したる、解雇職工小林只一及び野武士組瀬野久司より、今夕関西総同盟は因島争議に關し、協議會開催中なる旨の通知あり、事及び大阪聯合會より金參百圓寄贈ありし事を報告せり。

投書 三(字)

拜啓貴下益御健勝奉賀候。陳者今田御配下の労働争議に於ては、御心配の御事と御察し申上候。日々の紙上にて強硬なる御程度誠に甚しく思ひ居候。

争議の度毎に會社側の譲歩は只々彼等を酒色に耽けらすのみにて、及つて公益を害する者に御座候。

今日迄の如く譲歩に譲歩を重ね来りては、日ならずして彼労働者は昔日の武士と化し、大多数の中産階級者は殆んど薄氷を踏むに齎しくして、自棄するの止む無きに立到るべし。茲に至りて彼等は日に月に露化し、終には労働政府を樹立するに到るべく、實に寒心の至りに至はすや、仰ぎ希くは